

京都の夏祭り 幸せの形は「写一筆」

（静岡の今）

8月は「祭りの季節」である。青森・ねぶた、秋田・竿灯、仙台・七夕から始まり、甲子園の高校野球で熱狂は全国に拡散する。今年はリオデジャネイロ五輪も重なって、列島はお祭りのムードが充満している。

京都・静岡市は昨年、家康没後400年の記念事業で1年中祭り気分だったが、今夏も7月下旬に安倍川花火大会で夏祭りシーズンの開幕を告げた。

合併したから「静岡市」でいいのだが、厳密に言うところ「静岡市清水区」は夏祭りの名所である。駅前商店街の豪華な七夕飾りが有名な「清水七夕まつり」は今年で64回、海上花火が見事

な8月の「清水みなと祭り」も今年で69回を数えた。

駿府城下を基盤とした商業都市の旧静岡市と清水港を擁する港湾都市の旧清水市が合併した静岡市は、2005年4月に政令指定都市となった。

国や県は、大幅な権限移譲などバラ色の特典を並べて合併を促した。新庁舎の移転を軸に、旧静岡、清水の両市の中間地域は都市の風景が一変するはずだった。清水港を中心とした大レジャーランド構想なども浮上した。

合併後、中間地域には大型商業施設がオープンしたり、清水港周辺を「海洋文化拠点」にする構想も最近明らかになったりしてはいるものの、市民の多くはなかなか合併の「果実」を身近な生活の中で実感できないでいる。

政令指定都市誕生から11年、県と静岡市の間では次の都市像を模索する議論も交錯している。その中で「一瞬の夏」を楽しむ庶民の笑顔が、都市の形やハコモノ行政のほかにも幸せはあることを物語っている。
(前静岡県監査委員・宣永久雄)

清水七夕まつり——天井から数え切れないほどの飾りが下げられ、にぎわうアーケード街＝静岡市清水区、全写真連吉川正宏さん撮影

